





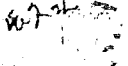



15年 5月 29日 <input checked="" type="checkbox"/> 起案 <input checked="" type="checkbox"/> 供覧			記号	福高在	
15年 6月 4日 決裁又は供覧済み			保存期間・追番号	年 一	
高齢福祉部長 	保健担当課長  高齢在宅支援課長 	保健担当係長  在宅支援係長 	起案者  	文書主任 	公印承認
<p>西区医療センター訪問看護ステーションより、訪問看護に関する「介護保険事業者 事故報告書」の報告がありましたので、供覧します。</p>					

介護保険事業者 事故報告書 (事業者→市町村)

横浜市提出用

平成 15 年 5 月 23 日

1 事業所の概要	法人名	(社)西区医療センター		
	事業所(施設)名	西区医療センター訪問看護ステーション		
	事業所番号	1460390005		
	所在地	横浜市西区中央1-15-18		電話番号 045(320)3061 FAX番号 045(320)3062
2 対象者	記載者職氏名	看護師 [REDACTED]		
	サービス種類 (事故が発生したサービス)	<input type="checkbox"/> 居宅介護支援 <input type="checkbox"/> 訪問介護 <input type="checkbox"/> 訪問入浴介護 <input type="checkbox"/> 訪問看護 <input type="checkbox"/> 訪問看護 <input type="checkbox"/> 通所介護 <input type="checkbox"/> 通所リハビリ <input type="checkbox"/> 短期入所生活介護 <input type="checkbox"/> 短期入所療養介護 <input type="checkbox"/> 痴呆対応型共同生活介護 <input type="checkbox"/> 特定施設入所者生活介護 <input type="checkbox"/> 福祉用具貸与 <input type="checkbox"/> 介護老人福祉施設 <input type="checkbox"/> 介護療養型医療施設 <input type="checkbox"/> その他		
	氏名・年齢・性別	[REDACTED]	年齢: [REDACTED]	性別: [REDACTED]
	被保険者番号	[REDACTED]	サービス提供開始年月日	H.10 年 5 月 日
3 事故の概要	住所	[REDACTED]		
	発生日時	H15.4.21.16時		
	発生場所	対象者 自宅		
	事故の種類 (複数の場合は、 もっとも症状の重いもの)	<input checked="" type="checkbox"/> 骨折 <input type="checkbox"/> やけど <input type="checkbox"/> 感染症・結核 <input type="checkbox"/> 打撲・捻挫・脱臼 <input type="checkbox"/> その他の外傷 <input type="checkbox"/> 職員の法令違反・不祥事 <input type="checkbox"/> 切傷・擦過傷 <input type="checkbox"/> 食中毒 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 異食・誤えん		
4 発生時の対応	事故の内容	死亡に至った場合はその死亡年月日 平成 年 月 日 ベッドから起き上がり、ポータブルトイレへ自力で移動し、排尿する。排尿後、右下月夜 装具つけ、杖を左手に持ち立ち位になる。歩行練習を始め、数歩前進したところ 右大腿部痛あり、歩行中止を促す。2m位離れた所にある車椅子を取りに行くと、間 目をくらした時、自ら歩行し方向転換しようと、バランスを失い、尻もちをつき、ベッド側に 転倒する。病院受診は拒否され、マッサージをしてから帰る。		
	対応の仕方	担当者がベッドに戻す。その後、管理者、主治医、責任者(理事長)へTELLし、担当医に		
	受診した医療機関	(医療機関名、住所、電話番号等) 中島整形外科 主治医 中島 横浜西区藤月1-120 (243)6651		
	治療の概要	X-線撮影、鎮痛剤処方。今のところ骨折は分からないが、痛みが続けば再受診する様に説明を受けている		
5 事故後の対応	連絡済の関係機関	ケアマネージャー、主治医、責任者(医療センター理事長)		
	利用者の状況	(病状、入院の有無、その他の利用者の状況及び、家族への報告、説明の内容) 4/18時30分 自宅へ電話する。娘「痛みあり。ポータブルトイレ座る時、股を拭く時に 介助しています」 4/2 中島整形外科受診する。17時自宅に電話する。娘「レントゲンの結果、骨折はないけれど、 内服薬がでました。先生に骨折してはいないといわれ、本人も安心したみたいです。痛みは 昨日より良くなりました」と話す。		
	損害賠償等の状況	5/1 加入している保険会社へ連絡あり。管理者より娘さん受診の車の費用は保険会社で対応可能。5/2 4/2 骨折受診 あり、5/2 家族より損害賠償の話し電話で済ませようかと。		
6 再発防止に向けての今後の取り組み	(できるだけ具体的に記載すること) 訪問看護指示書のリハビリ内容を具体的な指示をいたし、安全性を評価した上で、看護内容を翻めていく。室内をかたづけたりして、歩行するよう環境整備をする。			

注)記載しきれない場合は、任意の別紙に記載の上、この報告書に添付してください。

5. 事故後の対応の経緯

- 4/23 ティサービスは痛み強く午後臥床していた。入浴できなかつたとのこと。ヘルパーが送迎の介助の際、痛み強く全介助の状態たつたため、4/28にヘルパー事業所より連絡つける。
- 4/24 18時30分 自宅へ電話する。娘「痛みは、たんたん良くなっています。私の時にも転んだことがあります。」 歩行中の息切れあることや歩行状態の話をする。娘「市民病院の先生には歩かないと歩けなくなってしまうから。歩行して何かあった時、その時はその時必ずから」と話せる。
- 4/28 訪問時、右下肢痛みあり。大腿外側部に湿布見立用している。こぶし大・よりやや大まめの皮下出血あり。仰臥位や右側臥位になれないと、左側臥位になっている。痛み強いため、再度受診するよう連絡ノートを通して勧める。
- 4/30 20時50分 娘に電話する。娘「痛みは、だいぶ楽になって、トイレへ移る時も足に力が入るようになった。痛みは ティサービスから帰って強くなった。ティサービスでホットパックをしてもらった。上を向いたり右を向いて寝られるようになった」痛みが続いているので、再度受診を勧めたが、痛みは少しずつ緩和しているとのことだった。そのため、管理者からケアマネジャーに民間送迎サービスを手配して受診を強く勧めて欲しいことを連絡する。
- 5/1 ケアマネジャーと管理者から受診を勧め、5/2 再受診する。骨折の診断にて入院治療を勧められ、横浜船員保険病院へ救急入院する
- 5/2 家族との電話で娘より「整形外科医師より心不全があり手術がむずかしいから保存的療法で治療し、痛みがとれれば退院となる説明を受けました。連休明けにも手術可能か判断することになったとのこと。スピードトラックけん引をしていふとのこと。
- 5/7 5/9に手術を予定した。心臓の方も問題があり、月経不調もありリスクはある。オペ後は3週間ほど経過を予定していることを娘さんより連絡受けま
- 5/12 5/9 無事手術が終わり、5/12には車椅子に生かた。経過を病院より確認する。

6. 再発防止に向けての今後の取り組み (続き)

以前から、右足先が床にひっかかるとぐらつき バランス不安定なことがあったので、立位の時
みているバマだった。ホータスルトイレへ再度座らせてから 車椅子を取りに行くようになった。

- ・主治医への事故報告と同時に たたりに救急車で受診するシステムを作っていく
- ・平常の記録でも、本人の痛みのお訴えやバイタルサインから、Nsがどこまでリハビリプログラム
をすすめるか、本人へどうアプローチをして その反応がどうだったかなどを具体的に
記録していく。(リスクを念頭にいったケアと記録)

- ・管理者が、アクセシビリティの課題を訪問し 状況を把握できる。
問題点をいいた場合にも 2~3日後 様子を見守りながら
訪問するか、Telなどで把握できる。

- ・他のサービス事業者へ報告とし 様子観察していたため、何かあればケアマネと
当事業所に連絡をし、再度 主治医へ指示を仰ぐこととする

H15. 5. 7 15:45

(社) 西区医療センター訪問看護ステーションより FAX 受理
歩行訓練中の転倒、骨折

H15. 5. 7 17:20

(社) 西区医療センター訪問看護ステーション管理者難波氏あて電話で確認 (青谷)

- ・ 事故の内容の詳細について確認
- ・ これまでの経過について

→4/22 (事故翌日) 家族同伴で受診するも特に異常みられなかった。その後の訪問でも痛みの訴えが多く、皮下出血等もみられたので、痛みの状況を観察しつつ健側のみリハビリを実施するなど対応方法を変更した。受診をすすめるも、痛みは緩和していること、送迎手段がないということで家族 (娘) が拒否。しかし本人の痛みの状況を再度話し娘の同意を得て、担当ケアマネジャーが民間の送迎サービスを手配し、担当看護師も同行し 5/2 受診。X-P 上骨折の診断あり。

- ・ 損害賠償等の状況について

→5/1、管理者が事故の状況について、訪問看護ステーションとして加入している訪問看護事業共済会 (保険会社) へ連絡する。家族より、5/2 の受診に関してかかった送迎費用を負担してほしいという申し出があったことを伝える。保険会社からは、1 回目の受診と 2 回目の受診の間に本人の過失により骨折した可能性もあるので、事実関係の確認のため調査をするとの回答あり。

- ・ これまでの訪問時の本人の状況と、訪問看護指示書の内容について

→訪問看護指示書には、「リハビリを行う」「転倒注意」といった簡単な記述のみでそれ以上の指示はなかった。訪問の際、本人は痛みがある場合も「大丈夫」といいはり無理に歩こうとする場面はあった。なかなか看護師の指示を受け入れないことが多かった。

H15. 5. 15

西区医療センター訪問看護ステーション管理者難波氏より電話

- ・ その後の経過について報告

→5/9 手術当日家族との話し合いは中止。ステーションでの対応について不備がなかったか、再度娘より抗議があるも、訪問看護を受けたおかげで、母はこんなに回復したと感謝の言葉もあり、今後も継続してほしいと申し出があるなど、娘は混乱した様子うかがえた。

- ・ 賠償について

→保険会社側は、入院費の一部 (個室代、民間の救急車代) について負担するとの回答。1 回目の受診結果の事実確認をステーション側へするよう申し出があったため、本日確認する予定。

H15. 5. 29

(社) 西区医療センター訪問看護ステーション管理者難波氏あて電話で確認 (青谷)

- ・ 賠償について

→入院費の一部 (個室代、民間の救急車代) について負担する意向に変わりはないが、まだ確定はしていないとのこと。

介護サービス事故報告書

(あて先)

横浜市 鶴ヶ区

平成 年 月 日

事業者名 アースサポート(株)横浜在宅サービスセンター

所在地 西区岡野 1-5-1 電話 045-324-1311

サービスの種類 訪問介護 訪問入浴 訪問看護 訪問リハ 通所介護 通所リハ 短期入所生活介護 短期入所療養介護 居宅介護支援 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 介護療養型医療施設 その他()

事故の内容 H13.6.13 AM 9:55 ご利用者 様
 自宅

(1) 日時、場所、事故の概要
 9:45 バイタル異常見られず。入浴中。
 9:55 服衣し、オペレーターハルパーの二人で抱えお風呂。バットの取付取りに位置し、お風呂。手前に引き寄せようとして平足かけた時、本人痛みにて体を動かし、支えおとし、支えおとす。バット反対側に脚の部分が転落。上半身のみオペレーターが支えたが、バット下に腰かけようとして落ちる。

(2) 事故時の対応
 10:00 バットに戻り、当方看護婦に再度バイタル確認。異常は見られず。大車を取り、救急車の手配依頼するが、介護者の希望により、様子を見たいとのこと。本人意識は、は、足りていない。本日は大車と取り、清掃とする。
 10:20 清掃後、バイタルを再度確認。異常なし。意識レベルクリア。外傷異常も見受けられず。
 10:25 介護者に異常時は、救急車の手配と会社の方へ連絡を下さるよう依頼し、乗込依頼がEL失礼する。

10:53 介護者から、事務所へ連絡が入り、救急車にて病院に搬送されたこと。
 12:54 管理責任者に連絡し、病院にお見舞いに向う。
 14:05 病院に到着し、介護者のご子息にお詫言をする。
 病院にて待機中、ご子息より急性心筋梗塞により、死亡したことを伝えられ、車に乗せられたこと。死亡したのかどうかの因果関係は正確にはわかりたいとのこと。

事故後の対応

(1) 家族等への説明等
 現在ご家族とPTAミーティングあり、お話し合いを進行している再中です。

(2) 再発防止に向けての今後の方針・対応
 ミニシフトを、今回の事故に反省を含め、ヒューマンエラーが、重り起きていることを確認。
 ① 互針假りの冊子は、取外し付けたおく。
 ② 事故後は必ず、救急車を呼ぶ。
 ③ 緊急により事情がある場合があるが、必ず安全を最優先して、作業を行う。

関係機関への連絡状況
保健所 警察署 消防署 その他(居宅 鶴見オ、訪問看護ステーション)

01-06-27 18:55 宛先-6817789 送信元-アースサポート(株) P01/02 T-317 11-766